

第9節 現況のまとめ

都市づくりを取巻く現況を以下に整理します。

- ① 人口減少、少子高齢化が進行しています（年少人口12.2%、高齢者人口28.5%）。人口動態については、自然減の傾向が強まっている一方、社会減の傾向は弱まってきています。人口については、「結婚・離婚・縁組」、「学業上」、「職業上」による転出が多いですが、「住宅事情」による転入もみられます。
- ② 自町内就業率は37.6%であり、周辺市町と比較して低い状況です。
- ③ 商業は、商店数は減少傾向から2011（平成23）年以降横ばい、従業者数は2016（平成28）年に減少、商品販売額は一貫して増加しています。工業は、事業所数は減少傾向、従業者数は概ね横ばい、製造品出荷額等は2011（平成23）年以降、増加傾向となっています。
- ④ 宅地や公共用地などに供する都市的土地利用は28.8%で、国道21号沿線に多い状況です。用途地域内には低未利用地が28.9%残存しており、特に住居系・工業系用途地域に多い状況です。
- ⑤ 用途地域内に低未利用地が残存する一方、用途地域外での宅地開発・建築着工が一定程度あります。
- ⑥ 都市計画施設は、都市計画道路が12路線、都市公園が1箇所、汚物処理場が1箇所、公共下水道が計画されていますが、特に都市計画道路の整備が遅れています。
- ⑦ 公共施設は用途地域内や国道21号沿線に集積しており、人口密度の高い地域をカバーしています。
- ⑧ 公共交通はコミュニティバスが町内のほぼ全域をカバーしており、2013（平成25）年のふれあい予約バスの運行開始により乗降客数が増加しています。鉄道の乗降客数は御嵩口駅、顔戸駅は横ばい、御嵩駅、明智駅は減少傾向で推移しています。
- ⑨ 国道21号及び国道21号可児御嵩バイパス沿線のうち、中・御嵩地区では、可児川の氾濫による浸水や垂炭鉱廃坑の陥没の危険性が高い地域があります。また、山間部においては土砂災害の危険性が高い地域があります。
- ⑩ 山林が行政区域の57.3%を占め、多くが森林地域に指定されています。中山道沿線には歴史的・文化的資源が多く残っています。